

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ぼんぼこ		
○保護者評価実施期間	令和 8 年 3 月 24 日		～ 令和 8 年 4 月 24 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	令和 8 年 5 月 1 日		～ 令和 8 年 5 月 15 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 5 月 30 日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	公園を活用した活動環境 室内の広さが限られる一方で、目の前の公園を積極的に活用することで、子どもたちがのびのびと活動できる環境を工夫して作り出している。	視覚的支援の導入 ホワイトボード等を活用し、子どもにとって生活空間がわかりやすい構造化を意識している。	専門性の向上 標準化されたアセスメントツールの選定と、それをを用いた支援手法の統一に向けた職員研修の実施。
2	チーム連携と情報共有 全体会議や毎月の支援会議を通じ、会社全体で支援方針を共有・検討する体制が構築されている。	PDCAサイクルの定着 支援後の振り返りや、記録項目の簡素化など、現場の実情に合わせた実行可能な改善フローを模索・運用している。	地域交流の計画的推進 小規模な行事から地域住民を招くなど、地域交流の機会を年間計画に位置づけること。
3	個別支援計画への納得感 個々のアセスメントに基づいた個別支援計画の作成と説明が適切に行われており、保護者からの高い信頼を得ている。	多様な活動プログラム ネットや書籍、子どもの様子をチームで検討し、プログラムが固定化しないよう飽きさせない工夫をしている。	相談体制の整備 保護者からの子育ての悩みや専門的な研修ニーズに応えるため、外部講師の招聘や学習会の企画検討。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	外部とのネットワーク 自立支援協議会等への積極的な参画や、地域交流の機会確保が依然として課題である。	時間の確保 外部との連携や研修参加、組織的な取り組みを行うための「時間を確保すること」がボトルネックとなっている。	組織的な参画 外部活動(協議会等)の担当者を明確に決め、業務として時間を確保する体制を組織的に構築する。
2	家族支援体制 専門的な研修情報の提供や、きょうだい支援を含めた家族支援の実施体制において、ニーズ把握と実施の強化が必要。	標準化の不足 担当者によって対応が異なることを避けるため、引き継ぎ資料や確認手順の明確なルール化が必要だと認識している。	専門家との連携 外部の専門家を招いた研修の実施を検討しており、スタッフの専門性向上と家族支援体制の強化を図る必要があると考えている。
3	非常時・緊急時対応の周知 食物アレルギー対応や安全計画の周知など、保護者への情報共有方法にまだ改善の余地がある。	周知方法の定例化 保護者会や書面配布を「定期的なイベント」として組み込み、安全管理やマニュアルの周知を確実に実施する。	業務フローの明確 連携先リストの整備、卒業時の引き継ぎテンプレート作成、アレルギー対応フローの再徹底など、誰が対応しても同じ支援ができる体制づくり。